

New Crown 第11回 Lessons

Lesson 11-1: 文頭に置く副詞（句）

sometimes / on Monday など、副詞（句）によっては、文頭に置くことで文全体を修飾することができます。

1. sometimes / on Monday など、文の中間や最後に使っていた副詞（句）は文の先頭で使うことができる（この時、カンマが打たれることが多い）。
2. 文の先頭に持って来ることで、**文全体を修飾することができる**。
3. 1文に動詞が2つ以上登場する場合、副詞（句）がどちらの動詞にかかっているのか、はっきりさせるために使われる。

<例1> I sometimes go to the library and study English.
(私は時々図書館に行って英語を勉強します)

【解説】基本的に sometimes がかかるのが go to the library となる。つまり「私は家やカフェで英語を勉強することもあります、時々図書館に行って英語を勉強します」という意味で捉えることもできる。

<例2> Sometimes, I go to the library and study English.
(時々、私は図書館に行って英語を勉強します)

【解説】文頭に sometimes があるため、文全体を sometimes という単語で修飾する形となり基本的に「私は日頃いろいろなことをしていますが、時々図書館に行って英語を勉強します」という意味となる。

4. every Sunday のように、副詞句でも同じ考え方ができる。

<例1> I practice tennis and play games every Sunday.
(私はテニスを練習し、試合を毎週日曜日に行います)

【解説】「試合をする」というのが毎週日曜日というのは、はっきりしているが「テニスの練習をする」というのは毎週日曜日でない可能性がある。

<例2> Every Sunday, I practice tennis and play games.
(毎週日曜日に、私はテニスの練習をし、試合をします)

【解説】文全体を「毎週日曜日」という副詞句で説明しているため、「テニスの練習をする日」と「試合をする日」が同じ「毎週日曜日」だということがわかる。

5. 基本的に副詞（句）の後にカンマが打たれるが省略される場合もある（ただし、カンマがないと混乱が生じる場合や長い副詞句の場合はカンマを用いられる）。
6. しかし、**副詞（句）の全てを文頭に置けるわけではないので注意**。副詞（句）は、種類によって文頭に置ける場合と置けない場合がある。

【文頭に置ける副詞（句）の種類と例】

種類	例
明確な時間を表す副詞	today（今日） / on Sunday（日曜日に） / in the spring（春に）
頻度を表す多くの副詞	sometimes（時々） / usually（たいてい）
追加を表す副詞	also（～もまた）
順番を表す副詞	in the first picture（最初の写真には） / in the next picture（次の写真には）
場所	in Japan（日本では） / in my city（私の市では）
* 「頻度を表す副詞」でも <u>always / often</u> は文頭では使えないので注意！	

<例> Today, I want to read that book. （今日、私はあの本を読みたいです）

In Japan, many people have smartphones.（日本では、たくさんの人がスマホを持っています）

【文頭に置く副詞（句）の文：作り方】

ステップ1：「副詞（句）」と「残りの文」に分ける。

ステップ2：「副詞（句）＋カンマ＋残りの文」の形にする。

<例：今日、私はあの本を読みたいです>

ステップ1：「副詞（句）」と「残りの文」に分ける。

副詞句：「今日」＝ today

残りの文：「私はあの本を読みたいです」

＝ I want to read that book.

ステップ2：「副詞（句）＋カンマ＋残りの文」の形にする。

Today, I want to read that book.

Lesson 11-2: 接続詞 (but / so / because)

ここでは、接続詞について学んでいきます。接続詞とは **and** のように、単語と単語や文と文をつなぐ時に使われる単語です。接続詞の前にカンマが打たれる場合、打たれない場合がありますので、注意してください。

1. **A, but B = A だが、B**

<例> I am tired, but I don't want to go home. <私は疲れていますが、家に帰りたくないです>

[補足説明]

基本的に A, but B (A の後にカンマ) で 1 文となるが、場合によって A. But B. と 2 文で表されることもある。

2. **A, so B = A なので B**

<例> He is smart, so he can teach well. <彼は賢いので、彼は教えるのが上手です>

[補足説明]

基本的に A, so B (A の後にカンマ) で 1 文となるが、場合によって A. So(,) B. と 2 文で表されることもある。

3. **A because B = A. なぜなら B**

<例> We like soccer because it is fun.

<私たちはサッカーが好きです。なぜなら、楽しいからです>

[補足説明]

基本的に A because B (A の後にカンマは打たれない) で 1 文となるが、場合によって A. Because B. と 2 文で表されることもある。

Lesson 11-3: メールの書き方

英語でメールを書く際は、基本的に決まった形があります。例えば、Dear ～、とはじめ、Best / Yours / Sincerely などの結びの言葉で終わらせるといったものです。詳しく見ていきましょう。

From:	① kotayama@tataramail.com
To:	② suzuki3@minato.ac.jp
Subject:	③ Question

④ Dear Mr. Suzuki,
⑤ Hello. How are you? This is Kota. ~~~~~ ~~~~~.
~~~~~ ~~~~~.
⑥ Best,
⑦ Kota Yamamoto

- ① From : なので「～から」となる。ここに、自分のメールアドレスが入る。
- ② To : なので「～へ」となる。ここに、相手のメールアドレスが入る。
- ③ Subject : なので「題目・主題」となる。ここに、件名（メールのタイトル）が入る。
- ④ “Dear 相手の名前”と書き、カンマを足す。親しい相手なら Dear の代わりに Hello / Hi などを使う。
- ⑤ 本文。段落と段落の間に1行入れることによって見やすくしたり、段落の最初にスペースを入れるなどして、段落が分かれていることを示す。
- ⑥ Best / Yours / Sincerely などの結びの言葉を書き、最後にカンマを足す。親しい相手なら、Thank you / Cheers / Take it easy などが主に使われる。
- ⑦ 自分の名前を書く。基本的に英語では「名前・苗字 (First name・Last name) の順番で名前を書く。

## Lesson 11-4: 疑問詞⑤ (Why / Who / Whose (〇〇) / Where)

### 1. Why ~? = なぜ ~ ですか

<例> Why is he here? <なぜ彼は、ここにいるのですか>

#### [補足説明]

Why ~? (なぜ~ですか) という疑問文では、**Because** + 文 (なぜなら + 文) の形で答えられる場合が多い。

<例> Why is he here? — Because he is our teacher.

(彼はなぜここにいるのですか — なぜなら、彼は私たちの先生だからです)

### 2. Who ~? = ~、誰ですか / 誰が ~ ですか

<例> A: Who is Mr. Nakamura? B: He is a music teacher.

<A: 中村先生とは、誰ですか。 B: 彼は音楽の先生です>

#### [補足説明]

Who の疑問文には「誰が~ですか」という主語をたずねる形がある。例えば「誰が英語を教えるのですか」「誰が、ピアノを弾いているのですか」といった文は主語を尋ねる形となる。この場合“Who を主語とした肯定文の形 (Who は、3人称単数扱い)”となる。

(1) Who teaches English? (誰が英語を教えるのですか)

<Who does teach English? にはならないので注意>

(2) Who is playing soccer? (誰がサッカーをしているのですか)

また答えは、一般動詞の文なら“〇〇 do / does.”となり、be 動詞の文なら“〇〇 be 動詞”となる。

(1) Who teaches English? — I do. / Ken does.

(誰が英語を教えるのですか。 — 私です / ケンです)

(2) Who is playing soccer? — John is. / Wataru and Ryo are.

(誰がサッカーをしているのですか。 — ジョンです / ワタルとリョウです)

### 3. Whose 〇〇~? = ~は、誰の〇〇ですか

<例> Whose bag is it? <それは誰のカバンですか>

#### [補足説明]

文脈上、〇〇が限定されている場合は、〇〇が省略されることもある。

<例> That bag is nice. Whose is it? (あのカバンは良いです。誰のですか)

#### 4. Where ~? = ~、どこですか

<例> A: Where is Tomoko? B: She is in her room.

<A: トモコはどこですか。 B: 彼女は、彼女の部屋にいます>

##### 〔補足説明〕

「あなたは、どこにいるのですか」という場合、Where are you in? / Where are you at? とは言わず、Where are you? だけとなる。これは、in/at をつけなくても『あなたのいる場所をたずねる言い方』のため、in/at をつける必要がないため。しかし、「あなたはどこ出身ですか」という場合、Where are you? では分からないため、Where are you from? と from をつける必要がある。

##### 【ポイント！】

##### 疑問詞に can の疑問文を足す場合も、基本的に 疑問詞 + can 疑問文?

疑問詞に「be 動詞の疑問文」や「一般動詞の疑問文」を足す場合「疑問詞+be 動詞の疑問文?」「疑問詞+一般動詞の疑問文?」という形になっていましたが、これは疑問詞を「can の疑問文」に足す場合も同じです。つまり、「疑問詞+can の疑問文?」の形になります（主語をたずねる Who の疑問文の場合は、Who を主語とした肯定文の形となります）。

<例> Where can we go? (私たちは、どこに行けるのですか)

What time can you come here? (あなたは、何時にここに来られるのですか)

*Who can play the piano? (誰が、ピアノを弾けるのですか) *主語をたずねる形。

### Lesson 11-5: 様々なフレーズ⑨

#### 1. the other ~ / ○○ (所有格) other ~ = (2つのうちで) もう一方の ~

<例> I have two cars. This one is new, but the other one is old.

<私は2台の車を持っています。この車は新しいですが、もう一方は古いです>

##### 〔補足説明〕

the や所有格がつく理由は、文脈上「もう一方が何なのか」というのが、限定されているため（上記の例でいえば「2台の車のうちの新しくない方」と限定されている）。

2. May I help you? = お手伝いしましょうか / 何かお困りでしょうか

<例> A: May I help you? B: Yes. Where is this store?

<A: お手伝いしましょうか。 B: はい。このお店はどこですか>

[補足説明]

May I help you? は、Can I help you? の丁寧な言い方。答えは Yes, you may. / No, you may not. ではなく、肯定なら Yes. や Yes, please. などがあり、否定なら I'm fine. や、I'm fine. Thank you. などがある。

3. (所有格) own = ~自身の

<例> You can use your own pen. <あなたは、あなた自身のペンを使えます>

[補足説明]

own を入れなくても文章が成立することが多いが、own を入れることによって、強調を表すことができる。

<例> You can use your pen. (あなたは、あなたのペンを使えます)

You can use your own pen.

(あなたは、他の誰のでもなく、あなた自身のペンを使うことができます)

4. on ○○'s team = ○○のチームにいる / ○○のチームに入っている

<例> You are on our team. <あなたは私たちのチームです (チームにいます)>

[補足説明]

on the basketball team のように the や 具体的なスポーツの名前なども足すことができる。また、イギリス英語では、一般的に on ではなく in が使われる。

<例> You are in our team. <あなたは私たちのチームです>

## Lesson 11-6: 様々なフレーズ⑩

### 1. picture of ○○ = ○○の写真 (○○が写っている写真)

<例> This is a picture of our school. <これは私たちの学校の写真です>

#### [補足説明]

「(写真に) △△が写っている」という場合、△△ is in the picture. と前置詞に in が使われるが、「それは、○○の写真」という場合、It is a picture of ○○. と前置詞に of が使われるので、注意。また、picture of ○○ ではなく、○○'s picture とすると文脈によっては「○○が所有している写真」とも解釈できるので注意。

<例> My brother is in the picture. (私の兄が写真に写っています)

This is a picture of my brother. (これは私の兄の写真です)

This is my brother's picture. (これは私の兄の写真です)

(これは私の兄が所有している写真です)

### 2. Here is / are ○○ = こちらが ○○

<例> Here is your book. <こちらがあなたの本です>

#### [補足説明]

○○に入るのが、単数形・不可算名詞の場合、Here is ○○となり、複数形の場合 Here are○○ となる。

<例> こちらがあなたの本です。

本が 1冊の場合 : Here is your book.

本が複数の場合 : Here are your books.

### 3. look for ~ = ~を探す

<例> I am looking for my black pen. <私は、私の黒色のペンを探しています>

#### [補足説明]

よく進行形の形で使われる。